

## 「高島いちじく」誕生

### 高島農業農村振興事務所農産普及課

#### 【普及活動のねらい・対象】

平成 21 年 3 月、高島市に新たな果樹産地の育成を目指し、J A 等関係機関と連携の下、約 1,000 本のイチジク苗木が植栽されました。その約 1,000 本のイチジクも順調に生長し、今年度初収穫、初出荷を迎えることとなりました。しかし、イチジクの市場出荷は管内 J A では初めての試みであり、出荷規格から出荷箱の作成、出荷先、運送方法など、全ての事項を一から決めていく必要がありました。

イチジクが高島市の特産物として定着するためには、出荷一年目までの取り組みが非常に重要です。高島市のイチジクとして安定出荷できることを第一の目的に、普及活動を展開してきました。

#### 【普及活動の成果】

後発の産地として市場を開拓し、高島市の特産物に育てるため、J A 今津町、J A 新旭町、J A 西びわこの 3 J A のイチジクを統一できるよう誘導しました。栽培方法を統一するとともに、平成 21 年度末には J A、農業センター、市、県等の関係者が協議を行う「高島イチジク連絡調整会」の設置を決めました。平成 22 年度は連絡調整会を定期的に行い、統一規格やデザインなどの検討を行いました。協議の結果、『高島いちじく』の名称で統一して大津市場に出荷することが決定しました。

出荷にあたっては、市場担当者を招いて目合わせ会を行い、収穫方法について基本から指導を行いました。また、検査体制を整備するとともに、出荷が始まった後は市場と連絡を取りながら品質について確認し、個別に指導を行いました。間もなく市場出荷に適した果実を安定して出荷できるようになり、初年目となる今年度、約 18,400 パック、約 5.5 t を出荷することができました。市場担当者からも、「初年目としては品質の良いイチジクが出荷されていた」との評価を頂きました。

年々栽培者が増えており、出荷量も増えていきます。また、加工品も充実させていく予定です。「高島いちじく」が高島市の特産品として地域に根付くよう、今後も関係機関と連携しながら支援していきます。



出荷されるイチジク